

各位

会社名 ログリー株式会社
 代表者名 代表取締役社長 吉永 浩和
 (コード番号: 6579 東証マザーズ)
 問合せ先 取締役CFO 岸本 雅久
 (TEL. 03-6277-5617)
 (URL. <https://corp.logly.co.jp/>)

減損損失の計上および通期業績予想の修正並びに役員報酬の減額に関するお知らせ

当社では、2022年3月期第3四半期においてのれんの減損による特別損失を計上しました。それにより、2021年5月12日に公表致しました、「2021年3月期 決算短信[日本基準](連結)」における2022年3月期通期の連結業績予想値を達成することが、適時開示に基準に照らして困難となったため、通期連結業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2022年3月期通期の業績予想値と連結実績値の差異 (2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想値 (A)	百万円 3,092	百万円 191	百万円 186	百万円 113	円 銭 30.59
今回発表予想値 (B)	2,651	△45	△47	△598	△162.57
増減額 (B-A)	△440	△236	△234	△711	
増減率 (%)	△14.2	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期)	3,961	174	205	△25	△7.09

2. 修正の理由

moto 株式会社は運営する転職アンテナ事業において、SEO パフォーマンスが急速に悪化したため、当初業績予想で見込んでいた売上高を達成することが困難となりました。そのため、通期業績予想の修正を行った結果、当初予想と比べて 56.4%減の売上高で着地すると見込んでおります。なお、moto 株式会社の売上高の当社グループに占める割合は、2022 年第 3 四半期連結会計期間において 6.0%であるため、売上高未達の大きな要因となります。さらに営業利益に関して、moto 株式会社は当初業績予想では営業利益率 65.2%と高い収益体質の事業でしたが、こちらも売上高が大きく減少したことによって、営業利益の着地予想は当初業績予想と比べて 42.5%減となります。moto 株式会社のログリーグループに占める営業利益の割合は、当初業績予想では 104.4%であったため、moto 株式会社の営業利益の落ち込みがログリーグループ全体に大きな影響を及ぼし、当初業績予想を修正し、営業利益△35 百万円の着地になると予想しました。このことにより、moto 株式会社の営業利益が当初事業計画より大幅に悪化したため、moto 株式会社に対するのれんを算定しなおした結果、のれんの減損損失 488 百万円計上したため、2022 年 3 月期第 3 四半期の親会社に帰属する当期純損失は△574 百万円となりました。この結果、当初業績予想の親会社に帰属する当期純利益を修正して、期末の親会社に帰属する当期純損失は△598 百万円を見込んでおります。なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響が 2022 年 3 月期も通期に渡り継続すると仮定しております。

3. 会社の対応ならびに役員報酬の減額について

上記の事態を重く受け止めた当社取締役会は、本日付で当社取締役 COO 池永彰文の引責辞任を受け入れ、役員から退くことを承認した上で、池永彰文に対して moto 株式会社へ投資した資金 7 億円の回収の責任を全うするために、moto 株式会社代表取締役への就任を命じ、同じく代表取締役である戸塚俊介と共に、moto 株式会社の業績立て直しに注力させることで株主の皆様に対する信頼回復に全力で取り組んでいく所存でございます。

また、通期業績予想の下方修正及び moto 株式会社ののれんの減損損失を真摯に受け止め、経営責任を明確にするため、以下のとおり役員報酬の減額を実施いたします。

i) 当社

① 役員報酬の減額内容

監査等委員でない取締役 報酬月額の 30%を減額

② 対象期間

2022 年 3 月から 6 か月間

ii) moto 株式会社の役員報酬の減額内容

① 役員報酬の減額内容

代表取締役 報酬月額の 50%を減額

② 対象期間

2022 年 3 月から 1 年間

以上